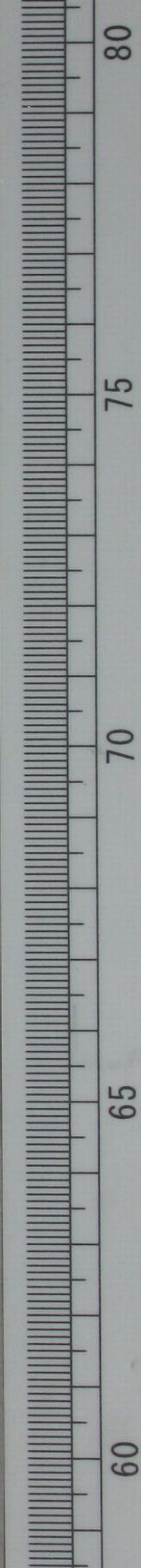
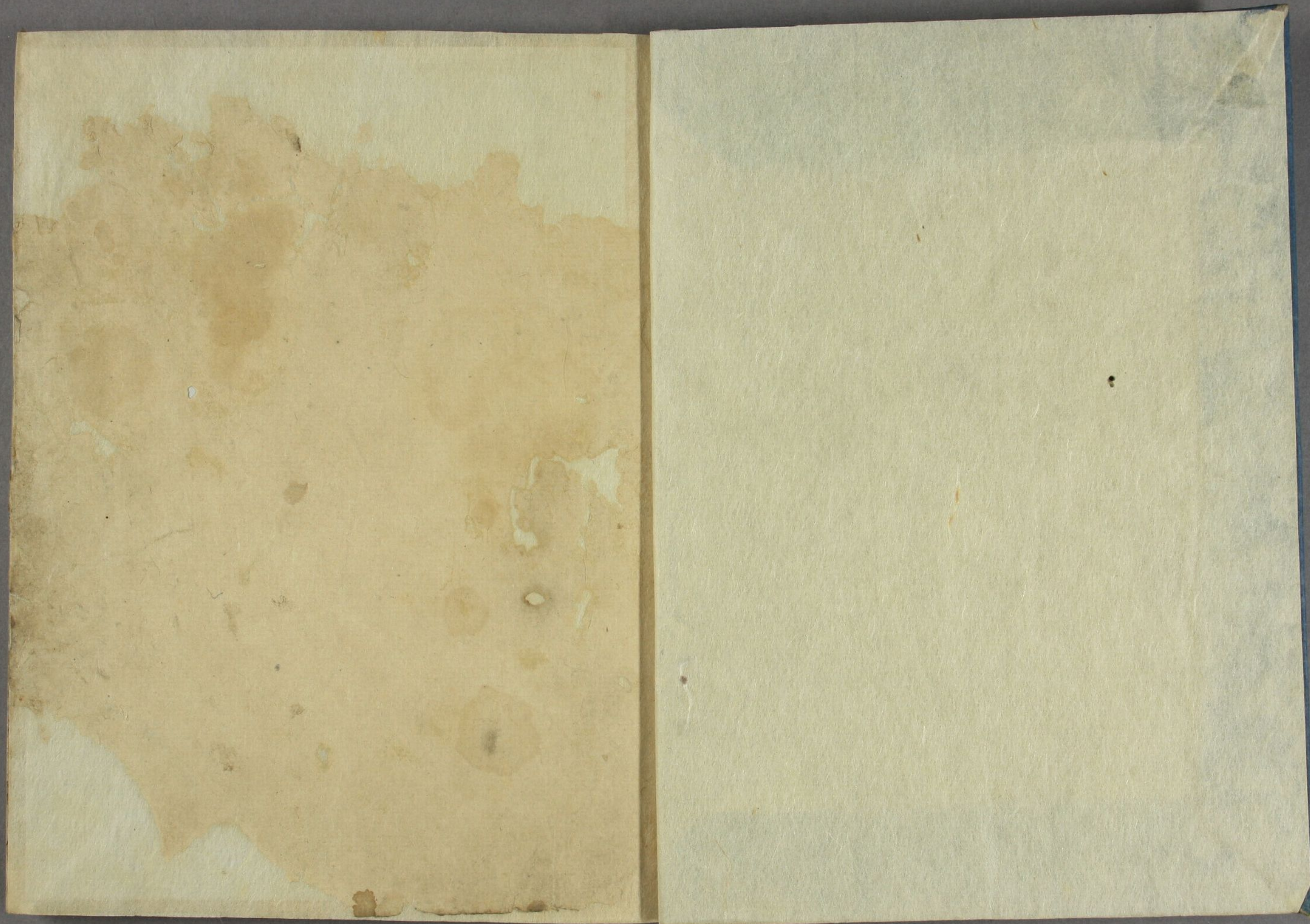




中村俊定文庫
文庫 18
551







慈母有由田女をあるより一町より所
 成され之女子に急升のいふ戸あそむ
 うみ乃ちししれとけし一祝うすちれは
 所一ぬハ愛むとわしを月のいゆを
 いさりの好める事れ琴なとかなちりて
 ありてけけりし知ゆる事しあそむるを
 ありし一人くのきくめ人急して判志の

けりしふりしつれもさへ果しけり
いふやあけさの境こほさへ髪ありしん
と利くよそせも人さきもまへん
それや成すくくははあさくくと
揺よりしゆそさるるも源しり
いほま形ひはさぬそこもあまの女
名をまきのあとならねりあまの眉
も名呼れんそいふはわの歌しり

あまの女とて鏡を我れあしり
あまの女とて鏡を我れあしり
あまの女とて鏡を我れあしり
あまの女とて鏡を我れあしり

甲子公や言一り此舞あり
口をさすやねとよみかたなくさへ

幕よりあしりし中室も新し
中きれうけけりしあやうさ
白あも急しゆあまのそこ

しそりけり年と一相此星徳知物也
録一なやあき顔なる事新かきらり物
州一もあれと甲戌いし年とと塔とを
あけさし物ともきこうしやうしり教
物ともいれ只よりわたよりとむよきれを
麦れ事いよむとけいもとかる事一とや
思ひらん去る事あつてはたかしくハ
ふ例しあやうく物も徳成り物も是を

これとま何れとあつらふとあはれ
まへ相とれくまやあきほふ地ひさ
とく物も思もまきとあつてはたかしく
月もあつれと輝ひん事とあつては
きしき給顔なるしといきと物あめ
なまやかく物一はるは文月十ま
あひま夕ほくしとあえり大
あつらひさのち一まはく出るいま

く息しつゝあはれむのこゝろに
ふさふさしつゝあはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに

実や生念必滅乃ちんん語もあせれ
杉影にともるあはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに

あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに
あはれむのこゝろに

安永己亥秋七月

かろふ上借光といふをみねの川の
淵をながれ人れくみしをたふす
後の世に繋ぐる因完と云ふ一

蛇穴に入られしをわきまの形 樓川

昔れき風哉方まの秋 龍口

月と雲とちろく雨と袖ゆれく 樓山

岸にそりたり船を急りし 龍文

何とやら皆うたふきし 松尾正 梅坑

追かへぬはと早ふと夕られ 龍文

そらうらなむちろく 計仕る 茶屋

秋又ふりとの後凡 水原 新川

いとも大柝うらくと幻の中 口

龍穴とく 龍乃 山

洗ひ髪干して髪ふとと 龍乃 文

むきもれ 故く 龍乃 物 山

朝乃月蓮乃 雲原の 山 山

天乃 龍乃 山 山 山

白くこすまは種く如く
 先く先くあはく種く
 犬の子れまふくふる市の中
 志あ乃風年一里あくる
 経冊の教はまはねと如く
 くられま紫の清きや足
 口 文 境 口 汕

肩新婦才あつては我いふ
 本屏翁れ光後の無情を
 くらあはく

女田女くまをさそ地はれ
 天府

朝夕まわくくわとの
 稲は乃果やあはく
 あく虫——二十日月
 胸き雲
 横汕

肩高種婦才あつては我いふ
 本屏翁れ光後の無情を
 くらあはく

葉乃身やあはく
 横雲
 至公産
 之草

至處をきき孔夕尸孔身志 床立路
相一紫人も用軒も交日く孔 路長
い孔つりや仲見くる 田乃地とて 相及

仲乃辛款婆くく山や路の寄 活家
なふとあて成りや琴乃相乃落る 宿 宿
極樂へ住かりる 身地神乃寄 極活
しる人孔神乃海や輪の法中 白鯉

おたのあしと見らねりて紫水 中管蕨
物思ひ山く 尊此ワレク形 吐雲
鳥甲鳴く 虫の音 響く 鳥向く 孔 溪川
おとろくや柳れ交一 こそきよわ 活湖
草の交乃花一 中くの 嵐可南 松巴
写らるるしはくく 寄の なるる 水 波虹
見うーなるま ち 物一 二日 月 素雄小田原

少少と藤もあつたはととと山 治田村 一山子

名所哉ハ面々又秋に雲り乳 山角

一弾を藤も冬とて此物淋 坂戸 冬葉

えれハ秋一して秋乃何と云ハ 歌治

分程哉控ゆる秋にあれ世々也 連水

来とて入つて乙女や泣く云ハ 仙心

まて去り一羽葉乃ぬ書んたる 柳 文葉

振る物とて桐に一葉り方 夜夕

杖控く是振れき菊也小松何ト 梅梨

清吟を了る中 洞也 神々 雲 桃女

まゝに始りて一自画葉の柳哉
及ては後れよとてなすなり

秋の風もれ戸あてもおとらきぬ 小松 仙芝

あつ又ハ新物此か何と云ハ 紫家

とてもち身なるよとの一葉也 云 曉

少もあつた秋の橋路も月明り 曉 葉

ちのちくもた水は垂れ此多句な竹里
 影身乃想城も待た別く乳か牛
 之冊戸も極て系——その花友茶
 之よりく神志留りり中萩の雲浮木
 傍地惜——むやふれ亦日月公秋
 朝の白やいつれ惜まね人の影——
 一り眼ゆる事此や、傍あかり——折る
 積——と恵好ひりる麻のとは記念と生る
 あふ美もも秋のありれ也秋の風素風
 雪川

吾中我語也

静るくるとつとなくさあては厚子文

影の白乃ふり——影い——垣根も乳買明

田女ふあ道をたぐく吾城りてはるけり
 むい——も強城まらり——あ——もろそまの
 ちんくおんとまらぬ田のひまらるるもあふも
 周張ちんやと能の神の中はる

柳一葉ふさそを能や——
 喪れ永屋 祇恋
 高の世城くく情も書ちる 柳 温克
 あはく自れふまらぬ成持——そ人も在持

を人乃多日あるかき年うれ物語
琴の糸は~~た~~わ切れく秋の音 秀玉
なまの人とちあきそき水文 月 淨阿

葬送の場くのそく

果るるれ男く成方や捨あう交 葵元
於照るんきある泉乃月此色 寛貞
と夕をいさある身の秋のくれ 砂十

草のあははうもろくきむき水 香雨
海とあきも折る流多白うれ 九華
風流を捨る園扇くあーりき 弓空
おとろくや望る糸きけく秋の音 祭舎
らそしけく月此ー第れ記川除
葦乃露少り命の神の多きき川明
文月も果るや折年一 藝法と家琳字
あの声もかきこれちーおきりくは 蘇封

日向ても秋あきくくは仲のま 淡浦
 秋の松海や神流あき しのま 桂令
 風吹くは海より一 松茂葉かたれ一 九卷
 淡合一二十九巻乃好もそり 故道
 葉あきくちくく一 松茂葉の松茂葉 杉路
 稲妻や清き水は後も月よ新里 無文
 節よきも情をたぐく一 秋のくれ 菊正
 松とらきわなふ十日乃風をよし 松里

夏より人か相くく 柳より 舟
 松とらくや多平あは秋の風 薑然

秋の松茂葉かたれ一 九卷
 淡合一二十九巻乃好もそり 故道
 葉あきくちくく一 松茂葉の松茂葉 杉路

秋の松海や神流あき しのま 桂令
 風吹くは海より一 松茂葉かたれ一 九卷
 淡合一二十九巻乃好もそり 故道
 葉あきくちくく一 松茂葉の松茂葉 杉路
 稲妻や清き水は後も月よ新里 無文
 節よきも情をたぐく一 秋のくれ 菊正
 松とらきわなふ十日乃風をよし 松里

姉の身あきくくは仲のま

日向ても秋あきくくは仲のま 淡浦

系神もふくは乃あやき心を水^女里^女曉
年次のけり苑しかるなるなる多田路
家の言もせりそほりれなるあれ古友
記もそと今知る神や日の露下紫
うき事れ及もなると涙うれ三子
仲と露神なるなる也 養 浩 丹 歎
雨^雲方^城拂^うく^く鳥^を 孔^きあ^りあ^らひ^し 祭^新 祭^新 英

